

## これからの梨の栽培管理について（第5号）

令和5年6月19日  
なのはな農業協同組合  
富山県富山農林振興センター

### 1 梨の生育状況

6月13日（満開64日後）時点の「幸水」の果実肥大は、前年より小さく、平年よりやや小さい状況です（無作為肥大調査結果：「幸水」果実横径 本年35.1mm、前年37.4mm、平年35.2mm）。

### 2 黒星病について

6月13日時点の「幸水」の発病果そう率は、5月15日調査の時に比べ低下しましたが、過去と比較して依然として高い状態が続いています。引き続き、り病部位の摘み取りや薬剤防除を徹底しましょう。

表1 年次別の黒星病発病果そう率（%）

令和5年調査日：6月13日、5月15日

| 品種   | 調査日  | R5   | R4   | R3  | R2  | R元  | H30  | H29  | H28 | H27  |
|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|------|
| 幸水   | 6/13 | 22.9 | 34.4 | 2.6 | 0.4 | 2.8 | 19.7 | 5.9  | 6.7 | 45.8 |
|      | 5/15 | 34.8 | 19.1 | 2.4 | 0.3 | 0.8 | 7.4  | 3.1  | 5.9 | —    |
| 豊水   | 6/13 | 17.3 | 24.4 | 1.6 | 1.1 | 4.6 | 19.2 | 14.6 | 8.4 | 42.6 |
|      | 5/15 | 18.6 | 7.3  | 0.6 | 0.4 | 0.7 | 7.8  | 12.1 | 5.9 | —    |
| あきづき | 6/13 | 11.7 | 5.0  | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 7.0  | 3.0  | 2.0 | 7.2  |
|      | 5/15 | 8.3  | 0.5  | 1.0 | 0.0 | 0.5 | 2.5  | 2.5  | 0.0 | —    |
| 新高   | 6/13 | 3.3  | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 4.0  | 0.1  | 1.6 | 31.3 |
|      | 5/15 | 0.3  | 0.5  | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.4  | 1.1  | 0.4 | —    |

### 3 仕上げ摘果作業について

- ・摘果作業が遅れている場合や着果量が多い場合は、表2を目安に早急に適正着果量へ制限し、果実肥大を促進してください。

※補正摘果基準表が必要な方は、

資料をお渡ししますので梨会館にお越しください。

表2 仕上げ摘果時の着果量（目安）

| 品種名  | 1㎡当たりの着果量 | 側枝長当たり（100～120cm） | 1樹当たりの着果量（3間植の場合） |
|------|-----------|-------------------|-------------------|
| 幸水   | 10～11果    | 5～6個              | 290～320果／樹        |
| 豊水   | 11～12果    | 6～7個              | 320～350果／樹        |
| あきづき | 11～12果    | 6～7個              | 320～350果／樹        |
| 新高   | 9～10果     | 4～5個              | 260～290果／樹        |

### 4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシンクイやハマキムシ類は梨の収穫期間中にも発生します。収穫期間中は農薬防除が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図ってください。

|      | 内容                      | 注意事項  |
|------|-------------------------|---|
| 設置本数 | 50本／10a                 | ①ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。<br>②傾斜地では斜面上側を多めに設置する。<br>③周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。 |
| 設置時期 | 7月下旬から8月初旬（「幸水」の収穫前までに） |   |
| 設置間隔 | 約4.5m間隔（1樹あたり1～2本程度）    |   |

## 5 これからの防除について

### 【重要】

○第 14～16 回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、散布間隔が 10 日以上空かないよう、また、雨前散布に努めてください。

○SS は、「低圧、低速、全列走行」を心がけましょう。

○短果枝群や側枝の基部では、葉の繁茂に伴い薬剤到達性が低くなり、黒星病の感染を助長させる原因となります。摘果作業等と並行して新梢管理（芽かき、新梢の切除）を実施してください。

| 回数 | 散布月日                        | 薬剤名と希釈倍数   | 散布量      | 主な対象病害虫  | 防除実施日<br>(自己記入) |
|----|-----------------------------|--|----------|--|-----------------|
| 14 | 6月 25～27 日<br>(満開後 76～78 日) | ストロビードライフロアブル 3,000倍<br>(Qo I 剤)<br>ベルコートフロアブル 1,500倍                    | 300<br>ℓ | 黒星病、輪紋病、<br>黒斑病、うどんこ病  |                 |
| 15 | 7月 5～7 日<br>(満開後 86～88 日)   | オンリーワンフロアブル 2,000倍<br>(DMI 剤)<br>オーソサイド水和剤80 1,000倍<br>アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 | 300<br>ℓ | 黒星病、輪紋病、<br>黒斑病、うどんこ病<br>シンクイムシ類、カメムシ<br>類、ケムシ類、コナカイガラ<br>ムシ類、アブラムシ類 |                 |
| 16 | 7月 15～17 日<br>(満開後 96～98 日) | フルーツガードWDG 1,000倍<br>(SDHI 剤+保護殺菌剤)                                      | 300<br>ℓ | 黒星病、輪紋病、<br>うどんこ病  |                 |
| 17 | 7月 25～27 日                  | オーソサイド水和剤 80 1,000倍<br>アグロスリン水和剤 2,000倍                                  | 300<br>ℓ | 黒星病、輪紋病<br>シンクイムシ類、ハマキムシ<br>類、カメムシ類                                  |                 |

※カイガラムシ類の発生が多い園では、7月中旬頃にトランスフォームフロアブル(2,000倍)を単剤で散布してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。